

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成20年10月9日(2008.10.9)

【公開番号】特開2002-155380(P2002-155380A)

【公開日】平成14年5月31日(2002.5.31)

【出願番号】特願2001-260663(P2001-260663)

【国際特許分類】

C 2 3 C 30/00 (2006.01)

F 0 1 D 5/28 (2006.01)

F 0 2 C 7/00 (2006.01)

【F I】

C 2 3 C 30/00 B

F 0 1 D 5/28

F 0 2 C 7/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月26日(2008.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 30～55 原子%のアルミニウム、
0.5～3 原子%のタンタル、及び
1～10 原子%の貴金属

を含んでなる合金から形成された耐酸化性皮膜であって、残部がニッケル及びニッケル - コバルトからなる群から選択される主金属である、皮膜。

【請求項 2】 アルミニウムが 35～55 原子%の範囲内のレベルで存在し、タンタルが 0.5～2 原子%の範囲内のレベルで存在する、請求項 1 記載の皮膜。

【請求項 3】 アルミニウムが 40～50 原子%の範囲内のレベルで存在し、タンタルが 0.75～1.75 原子%の範囲内のレベルで存在する、請求項 2 記載の皮膜。

【請求項 4】 前記貴金属が白金である、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項記載の皮膜。

【請求項 5】 金属基基板に環境保護性を付与する方法であって、請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項記載の耐酸化性皮膜を金属基基板上に形成する工程を含んでなる、方法。

【請求項 6】 前記主金属の少なくとも一部が基板からの拡散によって得られる、請求項 5 記載の方法。

【請求項 7】 前記金属基基板が超合金である、請求項 5 記載の方法。

【請求項 8】 (i) 金属基基板、及び
(ii) 請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項記載の耐酸化性皮膜
を備える物品。

【請求項 9】 さらに前記耐酸化性皮膜上に設けられた遮熱コーティングを備える、請求項 8 記載の物品。

【請求項 10】 前記金属基基板が超合金であって、当該物品がタービンエンジンの部品である、請求項 8 記載の物品。